

X 0221 の追加漢字集合について

小池 和夫

JIS X 0221 の附属書 1 では、日本文字部分レパートリを規定している。このうち、JAPANESE IDEOGRAPHS SUPPLEMENT 1 (追加漢字集合) は「比較的使用頻度が高いと認められる漢字」とされ、JIS X 0212 のうちから 890 字を選定している。

X 0221 の実装にあたっては、日本国内での漢字のレパートリとして、

- ① X 0208 のみの実装 (6355 字)
- ② X 0208 と追加漢字集合の実装 (7245 字)
- ③ X 0208 と補助漢字 X 0212 全体の実装 (12156 字)
- ④ X 0221 のすべての漢字の実装 (21026 字)

の中から選択することができる。括弧内は漢字の数である。

JIS X 0213 が制定された現在においては、

- ⑤ X 0213 の実装水準 3 (7604 字)
- ⑥ X 0213 の実装水準 4 (10040 字)

のうちいずれかを選択することも可能である。⑤⑥のいずれかを選択する場合は、①～④のレパートリとはかなり異なる内容となる。

いずれにせよ、日本語フォントの開発に当たっては、上記①～⑥のレパートリの中から選択することになる。X 0221 は部分実装を許しているが、少なくとも上記のいずれかのレパートリを満たすものであることが望ましいと考えられる。フォントの開発においては、コストパフォーマンスを考慮し、用途に応じて適切なレパートリを選択する必要がある。

①は現在の大多数の日本語フォントで実装されている。今後、X 0221 に基づいた実装を行う際にも、基本となるレパートリであることに変わりはない。

③は、今後のフォント開発に当たっては現実的ではない。X 0212 は廃止も検討された規格であり、その漢字集合の妥当性は検証されていないからである。

④は国際符号化文字集合 ISO/IEC 10646 のすべての文字を搭載する際の漢字集合であり、中国の簡体字なども含むものである。表示・印字用等、システムフォントとしての必要性はあるものの、印刷用の日本語フォントとしては過大であり現実的でない。この文字集合はさらに拡張され、さらに 6656 字が追加されている。また、X 0213 の制定に伴い、さらに 360 字が追加されることになる。

⑤及び⑥は、X 0208 の拡張漢字集合であり、用例に基づいて選定されている点からも、「幽霊文字」等の心配がなく、今後実装が期待されるものであるが、今後一般的になると予想される X 0221 に基づく実装においては、まず国際符号化文字集合でのコードポイントが確定されねばならない。また、⑥ともなれば、漢字数も 1 万を超え、コスト面でかなりの負担も生ずる。

②が、本稿で検討するレパートリである。7245 字という漢字数はコスト面では妥当であり、このレパートリを採用することによって国内での漢字使用状況にある程度十分な対応ができるのであれば、選択する価値がある。

ここで注意しておかねばならないのは、X 0212 と X 0213 とでは、文字の収集・選定の方法がまったく異なることである。X 0212 は、文字表を収集し、その文字が現れる文字表の数と大漢和辞典とを基準にして文字を選定している。X 0213 は用例を持つ典拠を収集し、典拠の重要度に応じて文字を選定している。したがって、X 0212 では、国内に使用例のある漢字（例えば NTT 電話帳に掲載されている人名の漢字）であっても、必ずしも選定されていないし、逆に X 0213 では国内の印刷業者やシステム機器メーカーの多くが用意している文字であっても、実際の用例が見られないものは選定されていない。

追加漢字集合は、X 0212 の漢字のうち、基本的に 8 以上の文字表に現れる漢字を選定している。しかし、その用例については検討されていないので、実際に国内で使用されている漢字であるか否かは不明である。したがって、この文字集合が実装に値するかは、X 0213 との重複、すなわち国内での用例が確認されているか否かを調べることで、ある程度判断できる。

そこで、この 890 字について、JIS X 0213 との対応を調べてみると、768 字が X 0213 と重複している。一方、以下の 122 字の漢字は X 0213 には選定されていない。

約 13.7%が用例のない字であることになるが、果たして本当に用例がないのか、それとも X 0213 の調査が不十分なために用例が採取できていないのかという疑問が残る。

この 120 字について、手元の資料をもとに検証した。資料は次の 5 つである。

① JCS の収集した漢字、延べ 30809 字、異なり 12868 字。この資料中、用例を得ているにもかかわらず、不採用となった漢字は合格とみなす。

②『今昔文字鏡』（エーアイ・ネット）。異体関係の資料として用いた。

③『新字源』（角川書店）。

④『字通』（平凡社）。見出し字 1 万程度の漢和辞典 2 冊に掲載されているか否かを、判断材料の一つとした。②～④の資料で、音訓や意味に大きな異なりがあるものは不合格と考える。

⑤『明朝体活字字形一覧』（文化庁）。印刷物に現れる漢字であっても、ごく特殊なものの場合は、その場限りの作字で印刷される。活字総数見本帳に存在する漢字であれば、常備しておく価値があると判断されていたわけである。多くの見本帳に存在する漢字は、用例もあったものと考えることができる。ただ、活字が伝来した時点ですでに存在していた漢字でも、わが国において使用されたか否かは確認できない。

こうして検討した結果、122 字中の 47 字については、意味もしくは用例の面から、合格と判断できるものであった。

残り 75 字は、「比較的使用頻度が高いと認め」ることはできない。890 字中の 75 字は決して少ない数ではない。

一方、この 890 字の中には、JIS X 0213 の第 3 水準に収められた漢字の多くが含まれていない。一例を挙げれば、

仵、佈、厲、嘑、圳、泉、森などである。

こうした点からみて、この追加漢字集合は、実装に適した漢字集合とはいえないと考えられる。

連番;UCS;X 0212;大漢和番号;検証

丟

001;4E1F;1606;41;①なし。ただし UCS:4E22 (大漢和 144) はメインフレームの外字にあるが、用例はない。②音は「チュウ」。この字を基本字とし、UCS:4E22 (大漢和 144) は姿形書換字とする。③なし。④なし。⑤この字と UCS:4E22 を包摂し、大漢和では 144 を当てている。

メ

002;4E44;1617;116;①X 0208 の 0126 「メ」 (UCS:3006) に包摂。②国字とする。基本字は「ト」。③なし。④なし。⑤なし。記号としての「メ」はこの一覧表には掲載されていない。なお、「一覧表にない漢字」の上海美華書館の 22 ポイント活字 (1873 年) にこの字と同定できる字がある。

亂

003;4E7F;1628;205;①NTT 電話帳に「亂雄 (はるお)」「亂 (おさむ)」の用例がある。公開レビューでは「要調査」としたが、採用には至らず。②「治」の古字とする。③なし。④なし。⑤国内の多くの見本帳にある。欧米人が中国で製作した活字の見本帳には存在せず、国内で、人名を用途に製作されたものと思われる。

伏

004;4F15;1657;451;①NTT 電話帳に「章伏 (ふみお)」の用例がある。公開レビューでは「要調査」としたが、採用には至らず。②「夫」の意符書換字とする。③なし。④なし。⑤なし。なお、「一覧表にない漢字」の大阪国文社五号活字 (1887 年) には存在する。

俾

005;4F3B;1668;484;①NTT 電話帳に「へい」「俾啓 (すみひろ)」の用例がある。公開レビューでは「要調査」としたが、採用には至らず。②UCS:62A8 「俾」の姿形書換字とする。③音は「ホウ」。「俾」に同じとする。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

倣

006;4FFD;1739;739;①NTT 電話帳に「きん」の用例がある。公開レビューでは「要調査」としたが、採用には至らず。②「欣」の意符書換字とする。③なし。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

倣

007;501B;1752;777;①NTT 電話帳に「よし」の用例がある。日本国語大辞典にも用例あり。公開レビューでは「要調査」としたが、採用には至らず。②「欺」の姿形書換字とする。③「あざむく」の意とする。また「倣儼」は進まぬさまとも。④③とほぼ同様。⑤なし。

冢

008;51A1;1886;1584;①共同通信社の外字表にあり、日本国語大辞典にも見える。しかし、現代日本語としての用例は得られず。不採用。②この字を基本字とする。③「おおう」の意。「蒙」に同じとする。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。[注]この字は「冢」の誤植として印刷物に現れることが多い。

劊

009;5266;1940;なし（えん、闍の異体）;①なし。②「闍」の姿形書換字とする。③なし。④なし。⑤上海美華書館の22ポイント活字及び一部の国内の見本帳に見える。

敷

010;53AB;2046;3008;①国会図書館にあるとされるが、用例なし。不採用。②UCS:5ED2の姿形書換字とする。③なし。④なし。⑤ごく一部の見本帳に存在する。

唵

011;54B9;2121;3564;①メインフレームの外字にある。用例なし。不採用。②関連字などの情報なし。③なし。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

嘏

012;560F;2215;4190;①NTT 電話帳に「かたし」の用例がある。日本国語大辞典にも人名の用例あり。公開レビューでは「要調査」としたが、採用には至らず。②音は「カ」。関連字はなし。③「さいわい」の意。④「さいわい」。「嘏辞」「嘏命」の熟語を掲載。⑤多くの見本帳に存在する。

噉

013;564B;2236;4301; ①NTT 電話帳に「噉矩（とくきよ）」の用例がある。公開レビューでは「要調査」としたが、採用には至らず。②UCS:554D の音符書換字とする。③なし。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

噙

014;564F;2238;4310; ①国会図書館、日本国語大辞典に用例ありとするも、確認できず。不採用。②「吸」の音符書換字とする。③「すう」の意。④「吸」と声義同じ。⑤多くの見本帳に存在する。

噩

015;5669;2246;4377; ①NTT 電話帳に「がく」の用例がある。日本国語大辞典にも用例あり。公開レビューでは「要調査」としたが、採用には至らず。②この字を基本字とする。③「いいあらそう」「わめく」「おどろく」など多くの意を示す。④「おどろく」「やかましい」などの意。「噩噩」「噩夢」の熟語を示す。⑤多くの見本帳に存在する。

噉

016;56B1;2270;4579; ①日本国語大辞典に用例あるも、採用に至らず。②擬声擬態字とする。関連字なし。③なし。④玉篇及び李白を引き、「ああ」「なげく」の意とする。⑤一部の見本帳に見える。

子

017;56DD;2284;4688; ①教科書調査で使用例を得ている。公開レビューでは採用予定としていたが、最終段階で補助ソースが得られず不採用となる。②「月」の武則天文字とする。③なし。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

墀

018;5880;2427;5404; ①共同通信社の外字、日本国語大辞典に太平記「栖墀（せいち）」の用例あり。中国の地名にもあるとされるが、現代用例なく不採用。②この字を基本字とし、「にわ」の訓を追加している。③「にわ」の意。④「ぬる」「きざはし」の意。⑤多くの見本帳に存在する。

夯

019;592F;2476;5841; ①NTT 電話帳に「夯吉（こうきち）」「夯夫（りきお）」の用例あり。日本国語大辞典にも用例。公開レビューでは要調査字だが、採用に至らず。②音は「コ

ウ」。この字を基本字とする。③なし。④⑤なし。

梟

020;5961;2491;5962;①日本国語大辞典に用例あるも、採用に至らず。②音は「ゴウ」。この字を基本字とする。③「おごる・あなどる」の意。④「あなどる、つよい」。⑤多くの見本帳に存在する。

嫪

021;5A47;2561;6392;①日本国語大辞典に用例あるも、採用に至らず。②音は「サイ」、訓は「うぬめ」。名称文字とする。③なし。④なし。⑤なし。

嫫

022;5A63;2567;6429;①日本国語大辞典に用例あるも、採用に至らず。②「姻」の古字とする。③「姻」の別体とする。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

嶮

023;5D43;2749;8268;①NTT 電話帳に「たかし」の用例あり。ただし、新字体。公開レビューでは要調査字、採用に至らず。②音は「ゲン」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤一部の見本帳に見える。

駘

024;5F22;2869;9748;①国会図書館、日本国語大辞典に用例ありとするも確認できず。不採用。②音は「トウ」。この字を基本字とする。③「ゆみぶくろ」の意。兵書『六韜』は『六駘』とも書くと言う。字体は大漢和・補助漢字とやや異なる。④「ゆみぶくろ、えびら、つつむ」。字体は大漢和・補助漢字とやや異なる。⑤多くの見本帳に存在するが、字体は大漢和・補助漢字とやや異なる。[注] 大漢和・補助漢字以外は「𠂔」の中央の画がまっすぐの形。

韶

025;5F28;2872;9758;①日本国語大辞典に見えるものの出典は新撰字鏡。現代用例なく、不採用。②音は「ショウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤なし。

𠂔

026;5F50;2887;9908;①字体記述要素として第4水準に追加予定だったが、「𠂔」と包摂。②部首「けいがしら」の字体としては、この字を基本字とする。③なし。④「ケイ」としてこの形で載せる。⑤多くの見本帳でこの字体を採用している。

忬

027;5FED;2941;10372;①日本国語大辞典の外字にあるものの、用例なし。不採用。②UCS:662A の音符書換字とする。③音は「ヘン」。「よろこぶ・たのしむ」の意。④「よろこぶ」。⑤多くの見本帳に存在する。

恠

028;6061;2972;10576;①日本国語大辞典に用例あるが、不採用。②「恠」の交換略字とする。③「恠」の俗字とする。④「吝」「恠」の異文。⑤多くの見本帳に存在する。

愔

029;6114;3032;10937;①NTT 電話帳に「愔子（しずこ・やすこ）」の用例あり、公開レビューでは要調査字だが、採用に至らず。②音は「イン」。この字を基本字とする。③なし。④「やわらぐ、しずか」。⑤なし。

懂

030;61C2;3082;11320;①なし。②音は「トウ」。この字を基本字とする（ただし草冠4画）。③なし。④「さとる、しる」。⑤ごく一部（国内では博文館四号のみ）の見本帳に見られる。

拊

031;6342;3176;12124; ①NTT 電話帳に「拊郎（ごろう）」の用例あり、日本国語大辞典の用例もある。公開レビューでは要調査字だが、採用に至らず。②音は「ゴ」。この字を基本字とする。③「ふれる・さからう」の意。④なし。⑤一部の見本帳に見られる。

揔

032;6374;3193;12212;①日本国語大辞典に用例あるも、不採用。②UCS:6460 の交換略字とする。③なし。④なし。⑤なし。

摔

033;637D;3203;12225;①日本国語大辞典に用例あるも、不採用。②音は「ソウ」。この字を基本字とする。③音は「ソツ」。「つかむ・とる」の意。④「ソツ、シュツ」「つかむ、とる」。⑤多くの見本帳に存在する。

掇

034;6387;3207;12241;共同通信社外字にあり、国会図書館、日本国語大辞典にも見えるが、

現代用例なく、不採用。②音は「タツ」。この字を基本字とする。③音は「テツ」。「とる・ひろう」の意。④「ひろう、えらぶ、やめる」。⑤多くの見本帳に存在する。

招

035;6390;3209;12253;①日本国語大辞典に『太平記』の用例あるも、現代用例なく、不採用。②音は「コウ」。この字を基本字とする。③④なし。⑤なし。

揆

036;639E;3214;12270;①国会図書館、日本国語大辞典に用例ありとするも、確認できず。不採用。②音は「エン」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤ごく一部の見本帳に見られる。

摻

037;647B;3274;12649;①日本国語大辞典に用例あるも、不採用。②音は「サン」。この字を基本字とする。③「とる・にぎる」の意。④なし。⑤多くの見本帳に存在するが、一部に新字体も混じる。

攙

038;6519;3330;12991;①日本国語大辞典に用例あるも、不採用。②UCS:9471 の意符書換字とする。③なし。④「さす」。⑤一部の見本帳に見える。

盱

039;65F0;3378;13751;①NTT 電話帳に「たける」「かん」などの用例あり。日本国語大辞典の用例もある。公開レビューで要調査字としたが、採用に至らず。②音は「カン」、訓は「おそい」「くれる」。この字を基本字とする。③「くれる・ひぐれ・おそい」の意。④「くれる」。⑤多くの見本帳に存在する。

昏

040;662C;3410;13853;①日本国語大辞典に用例あるも、不採用。②「昏」の意符書換字とする。③なし。④UCS:6543「啟」の異体とし、「つとめる」。⑤なし。

晁

041;665C;3428;13944;①日本国語大辞典に用例あるも、不採用。②音は「コン」。この字を基本字とする。③なし。④「あに」。基本字は「日」を UCS:7714「眾」に変えたもの。また異体として「晁」を載せる。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

皞

042;66A4;3456;14101;①NTT 電話帳に「あきら」「きよし」などの用例がある。公開レビューでは要調査字としたが、採用に至らず。②音は「コウ」。この字を基本字とする。③UCS:769E の別体とする。④なし。⑤なし。

椈

043;6830;3551;14731;①日本国語大辞典の外字にあるが、用例なし。不採用。②「筏」の同字とする。③なし。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

椹

044;6913;3626;15031;①日本国語大辞典の外字にあるが、用例なし。不採用。②音は「タク」。この字を基本字とする。③「うつ・うったえる」の意。④「たたく、うつ」。⑤ごく一部（国内は一例のみ）の見本帳に見られる。

椿

045;6A01;3683;15398;①国会図書館、日本国語大辞典にあるとするが用例は確認できず。不採用。②音は「トウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

榧

046;6A28;3692;15472;①国会図書館にありとするが、用例なし。不採用。②音は「セイ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤一部の見本帳に見られる。ただ、朝日新聞社（1946年）にあり、何らかの使用例はあったものと思われる。

撩

047;6A51;3712;15534;①日本国語大辞典にありとするも、用例なし。不採用。②音は「ロウ」。この字を基本字とする。③「たるき・きぎれ」の意。④なし。⑤一部の見本帳にのみ見られる。

洑

048;6D11;3916;17373;①国会図書館にありとするも、用例なし。不採用。②UCS:6F93 の意符書換字とする。③「ながれる」の意。④なし。⑤一部の見本帳に見られる。

瀕

049;6F92;4074;18336;①NTT 電話帳に「ひろ」「ひろし」などの用例がある。公開レビュー

一では要調査字としたが、採用に至らず。②音は「コウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤なし。

澁

050;6FA8;4084;18392;①なし。②音は「セイ」。この字を基本字とする。③「水辺の埋立地」・「みぎわ・きし」の意。④「みぎわ、きし」。⑤やや多くの見本帳に存在する。

燐

051;71D6;4224;19430;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②UCS:71C2の音符書換字とする。③「あたためる・ゆでる」の意。④「あたためる、にる」。⑤一部の見本帳に存在する。

燿

052;721D;4237;19614;①日本国語大辞典にありとするも、用例なし。不採用。②音は「シヤク」。この字を基本字とする。③「かがりび・たいまつ」の意。④「かがりび、たいまつ」。⑤多くの見本帳に存在する。

舸

053;7241;4245;19767;①なし。②大漢和 9682「舸」を基本字とし、この字を音符書換字とする。③なし。④なし。⑤なし。

犴

054;72B4;4280;20250;①日本国語大辞典にありとするも、用例なし。不採用。②音は「ガン」。この字を基本字とする。③UCS:8C7B「犴」の別体とする。④「カン」「やけん、ひとや」。⑤多くの見本帳に存在する。

猷

055;7343;4324;20599;①国会図書館、日本国語大辞典にありとするも、用例なし。不採用。②音は「ガイ」。この字を基本字とする。③なし。④「おろか」。⑤やや多くの見本帳に存在する。

獮

056;7383;4347;20807;①日本国語大辞典にありとするも、用例なし。不採用。②音は「キヤク」。この字を基本字とする。③「大きい猿」「つかむ」の意。④「おおざる」。⑤ごく一部の見本帳に見られる。

茲

057;7386;4349;20816;①NTT 電話帳に姓名共に用例あり、他の用例も多数。「茲」に包摂されているが、分離要求もある。②「茲」との異体関係を認めず、独立の基本字とする。③なし。④なし。ただし、「茲」の解説で『説文』を引用するところでは、この字を用いて区別している。⑤「茲」とは別に多くの見本帳に存在する。

瑄

058;73F5;4389;20988;①国会図書館にありとするも、用例なし。不採用。②音は「テイ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

珽

059;73FD;4394;21001;①NTT 電話帳に「珽市（ていいち）」の用例あり。共同通信社外字、日本国語大辞典もある。公開レビューでは要調査字だが、採用に至らず。②音は「テイ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

瑑

060;7451;4430;21113;①メインフレームの外字にあるが、用例なし。不採用。②音は「テン」。この字を基本字とする。③なし。④「あげぼり」。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

瓘

061;7480;4443;21193;①NTT 電話帳に「瓘治（さいじ）」の用例あり。日本国語大辞典にあるも、用例なし。公開レビューで要調査字としたが、採用に至らず。②音は「サイ」。この字を基本字とする。③「玉の光」「さかんなさま」の意。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

寔

062;7590;4537;22006;①日本国語大辞典にあるが、用例なし。不採用。②音は「タイ、チ、テイ」。この字を基本字とする。③大漢和 22011 と同じ字体を掲げ、その俗字とする。「つまずく・とどまる」の意。④「うえる、とどまる」。⑤大漢和 22011 を選んでいるが、多くの見本帳ではこの字が入っている。

疒

063;7593;4539;22017;①メインフレームの外字にあるが、用例なし。不採用。②大漢和 22021 を基本字とし、この字は姿形書換字とする。③なし。④なし。⑤やや多くの見本帳

に存在する。

疾

064;760A;4573;22320;①日本国語大辞典にあるとするが、用例なし。不採用。②音は「コウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤一部の見本帳に見られる。

癩

065;7674;4620;22653;①日本国語大辞典にあるとするが、用例なし。不採用。②大漢和22646を基本字とし、この字は意符書換字とする。③なし。④なし。⑤なし。

皤

066;76A4;4633;22784;①国会図書館、日本国語大辞典にありとするも、用例なし。不採用。②音は「ハ」。この字を基本字とする。③「しろい」の意。④「しろかみ、しろい」。⑤やや多くの見本帳に見られる。

障

067;7795;4716;23619;①メインフレームの外字にあるが、用例なし。不採用。②音は「ショウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤やや多くの見本帳に見られる。

砢

068;7822;4754;24088;①NTT 電話帳に「砢三子（らみこ）」「長砢（よしのり）」の用例がある。日本国語大辞典にもあるとするが用例なし。公開レビューで要調査字とするが、採用に至らず。②音は「ラ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

罍

069;782E;4757;24111;①日本国語大辞典にあるとするが用例なし。不採用。②音は「ド」。この字を基本字とする。③「やじり」の意。④「やじり」。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。しかし、朝日新聞社の活字があるため、何らかの使用例はあったものと思われる。

砵

070;7835;4759;24133;①メインフレームの外字にあるが用例なし。不採用。②音は「アウ」。名称文字とする。③なし。④なし。⑤やや多くの見本帳に見られる。

礪

071;793D;4844;24629;①国会図書館にありとするも、用例なし。不採用。②音は「ジョ

ウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤やや多くの見本帳に見られる。

筆

072;7B14;4984;25888;①国会図書館、日本国語大辞典にありとするも、用例なし。不採用。②「筆」の同字とする。③「筆」の別体とする。④なし。⑤康熙字典と大漢和を除くと、博文館四号だけに見られる。

籐

073;7C67;5103;26777;①日本国語大辞典にあるとされるが、用例なし。不採用。②音は「キョ」。この字を基本字とする。③「たかむしろ」「はとむね」の意。④「たかむしろ」。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

糶

074;7CC9;5129;27036;①日本国語大辞典にあるとされるが、用例なし。不採用。②この字が基本字で、「粽」を音符書換字とする。③「ちまき」の意。「粽」は別体とする。④「粽」の異体として掲げる。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

總

075;7DEB;5224;27671;①メインフレームの外字にあるが、用例なし。不採用。②「總」の交換略字とする。③「青色の絹」「うすぎぬ」の意。「総・總」は別字とする。④なし。⑤やや多くの見本帳に見られる。

績

076;7E62;5256;27914;①日本国語大辞典にあるとされるが、用例なし。不採用。②音は「カイ」。この字を基本字とする。③「織った布の端」「描く・絵」の意。④「おりあまり、いろどる、あやぎぬ」。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

繫

077;7E6B;5258;27940;①「繫」に包摂。78JIS 字体を復活させた 28 字のうち、X 0208、X 0213 で包摂規準を適用される唯一の字。「撃」については、常用漢字表の康熙別掲の字体が追加されたが、この字は表外字のためそのままとなっている。

疆

078;7E6E;5259;27949;①国会図書館、日本国語大辞典にあるとされるが、用例なし。不採用。②音は「キョウ」。この字を基本字とする。③UCS:97C1「疆」の本字とする。「きずな」の意。④「たづな」。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

𠄎

079;7F53;5285;28201;①メインフレームの外字にあり。字体記述要素としては選定されず、不採用。②「𠄎」の本字とする。③なし。ただし、部首の変形を示したところに掲げられている。④なし。⑤なし。

𠄐

080;80AB;5381;29303;①NTT 電話帳に「𠄐一（じゅんいち）」の用例あり。日本国語大辞典にもあるとされる。公開レビューで要調査字とするが、採用に至らず。②音は「シェン」。この字を基本字とする。「𠄐」は意符書換字。③「ほじし・ほおぼね」の意。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

𠄑

081;814C;5426;29616;①なし。②音は「ヨウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

𠄒

082;81B4;5451;29895;①日本国語大辞典にあるとされるが、用例なし。不採用。②音は「コ」。この字を基本字とする。③「ほじし」「あつい・手厚くする」の意。④「ブ」「ほじし、ゆたか、おおきい、うつくしい」。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

𠄓

083;8203;5478;30202;①日本国語大辞典にあるとされるが、用例なし。不採用。②音は「シヤク」。この字を基本字とする。③「靴」「おおきい」「ひがた」の意。④「ぬいぐつ、かさねぐつ、かささぎ」。⑤一部の見本帳に見られる。

𠄔

084;84A8;5679;31590;①NTT 電話帳に「しげる」の用例あり。日本国語大辞典にもあるというが、用例なし。公開レビューでは要調査字としたが、採用に至らず。②音は「セン」。この字（草冠 4 画）を基本字とする。③「あかね」「あざやか」の意。④「茜」の異体として掲げる。⑤やや多くの見本帳に見られる。

𠄕

085;86A7;5852;32899;①日本国語大辞典にあるとされるが、用例なし。②音は「カイ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤やや多くの見本帳に見られる。

蜚

086;871E;5891;33145;①三省堂『大辞林』、日本国語大辞典にあるとして、追加予定も、最終的に採用に至らず。②音は「キ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

蜚

087;8728;5901;33163;①国会図書館、日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「ショウ」。この字を基本字とする。③「蝶」の本字とする。④なし。⑤なし。

蠹

088;8799;5938;33416;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②「蠹」の本字とする。③なし。④なし。⑤ごく一部（築地五号のみ）に見える。

蟻

089;881C;5986;33780;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「ハン」。この字を基本字とする。③「いなご」の意。④「いなご」。⑤なし。ただし、美華書館の22ポイント活字と、大阪活版三号活字にはある。

街

090;8856;6013;34049;①なし。②「巷」の同字とする。③「巷」の別体とする。④「巷」の異体として掲げる。⑤ごく一部の見本帳に見える。

標

091;893E;6074;34540;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「ヒョウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤なし。

攀

092;897B;6101;34741;①国会図書館、日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「ハン」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤一部の見本帳にのみ見られる。

訇

093;8A07;6137;35219;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「カ」。この字を基本字とする。③「大きな音」「いつわる・あざむく」の意。④「おどろく声」の意。⑤一部の見本帳に見られる。

𨮑

094;8D69;6339;37004;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「キョク」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

𨮒

095;8D8D;6346;37124;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「チ」。大漢和 35258「訶」（音は「ガツ」）の交換略字とする。③なし。④なし。⑤一部の見本帳に存在する。

𨮓

096;8E7A;6431;37886;①NTT 電話帳に「照𨮓（てるあき）」「𨮓立（みちはる）」の用例あり。公開レビューでは要調査字としたが、採用に至らず。②音は「キョウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤やや多くの見本帳に存在する。

𨮔

097;8E92;6437;37965; 日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「レキ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤なし。

𨮕

098;8ECF;6457;38183;①NTT 電話帳に「のり」「き」などの用例あるが、字体と音に齟齬がある。国会図書館等にもあるとするが、誤字、誤植のおそれあり。公開レビューでは要調査字としたが、採用に至らず。②音は「ゲツ」。この字を基本字とする。③「よこがみ（車に用いる楔）」の意。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

𨮖

099;90B4;6589;39341;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「ヘイ」。この字を基本字とする。③「春秋時代の地名」「よろこぶさま」④なし。⑤なし。

𨮗

100;91AD;6684;40023;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「ホク」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤ごく一部（国内は一例のみ）の見本帳に見られる。

𨮘

101;9206;6728;40211;①NTT 電話帳に「𨮘一（しょういち・こういち）」の用例あり。共

同通信社外字。日本国語大辞典にもあるとされる。公開レビューで要調査字としたが、採用に至らず。②「鉛」の姿形書換字とする。③「鉛」の俗字とする。④なし。⑤なし。

鋳

102;92DF;6838;40474;①NTT 電話帳に「鋳一（しんいち）」の用例あり。日本国語大辞典にもあるとされる。公開レビューで要調査字としたが、採用に至らず。②音は「シン」。この字を基本字とする。③「きざむ・するどい」の意。④「きざむ」。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

録

103;9352;6877;40614;①NTT 電話帳に「録郎（じゅうろう）」の用例あり。日本国語大辞典にもあるとされる。公開レビューで要調査字としたが、採用に至らず。②音は「ジュウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤一部の見本帳に存在する。

鍬

104;936D;6888;40644;①国会図書館、日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「コウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

鍛

105;93A9;6927;40768;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「サツ」。この字を基本字とする。③「つるぎ・ほこ」の意。元素名「サマリウム」。④なし。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

鏊

106;93CA;6934;40782;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「ゴウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤なし。

鑽

107;9455;6978;41000;①国会図書館、日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②UCS:6ACD の意符書換字とする。③「かなとこ」の意。④なし。⑤一部の見本帳に見られる。

雫

108;96F1;7092;42233;①国会図書館、日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②「滂」の意符書換字とする。③「雪がさかんに降るさま」。④「ゆきふる」。⑤一部の見

本帳に存在する。

霏

109;9702;7094;42282;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「ボク」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤一部の見本帳に存在する。

霉

110;9709;7103;42302;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②「黴」の音符書換字とする。③なし。④なし。⑤一部の見本帳にのみ見られる。

鞞

111;97B6;7149;42977;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「ハン」。この字を基本字とする。③「大きな帯」の意。④「おおおび」。⑤一部の見本帳に見られる。

駈

112;99BA;7302;44605;①NTT 電話帳に「駈宣（としよし）」の用例がある。日本国語大辞典にもあるとされる。公開レビューでは要調査字としたが、採用に至らず。②音不明。この字を基本字とする。③音は「ソウ」。「おいつく・はしる・はやい」の意。④なし。⑤ごく一部（国内は一例）の見本帳にのみ見られる。

駟

113;9A27;7336;44878;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「カ」。この字を基本字とする。③「黄色い馬」「かたつむり」の意。④「浅黄の馬」「かたつむり」の意。⑤一部の見本帳にのみ見られる。

馱

114;9A56;7352;45022;①NTT 電話帳に「馱方（てつかた）」の用例がある。メインフレームの外字にも複数ある。公開レビューでは要調査字としたが、採用に至らず。②音は「テツ」。この字を基本字とする。③「くろくりげ・赤黒色の馬」の意。④「くろくりげ」。⑤なし。

骸

115;9AB5;7360;45151;①なし。②「體」の交換略字とする。③なし。④なし。⑤ごく一部の見本帳にのみ見られる。

𪗇

116;9B34;7420;45690;①国会図書館、日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②「釜」の本字とする。③「かま・なべ」の意。④「かま」⑤ごく一部（国内は一例）の見本帳にのみ見られる。

𪗈

117;9BD7;7483;46211;①なし。②音は「ショウ、ソウ」、訓は「ひもの、ふか」。この字を基本字とする。③「鱧」の本字とする。④「鱧」の異体として掲げる。⑤なし。

𪗉

118;9C0B;7507;46326;①なし。②大漢和 46159 を基本字とし、この字はその同字、「鮫」を交換略字とする。③「なまず」の意。④なし。⑤なし。

𪗊

119;9DB1;7619;47177;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「ケン」。この字を基本字とする。③「とぶ・かける」の意。④なし。⑤多くの見本帳に存在する。

𪗋

120;9DEB;7639;47331;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「シユク」。この字を基本字とする。③「神鳥の名」「鳥の名」。④「神鳥の名」。⑤ごく一部（国内は一例）の見本帳にのみ見られる。

𪗌

121;9F12;7709;48321;①国会図書館にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「シ」。この字を基本字とする。③「小さなかなえ」の意。④「かなえ」。⑤ごく一部の見本帳に見られる。

𪗍

122;9F71;7751;48706;①日本国語大辞典にあるとするも、用例なし。不採用。②音は「シユウ」。この字を基本字とする。③なし。④なし。⑤なし。